グローバル通信

2016/11/24

特集「高校模擬国連全国大会出場報告」

NO.38

１１月１２日、１３日の両日、全国から８６チームが参加して、国連大学で「全国高校模擬国連」が開催されました。本校からは高校２年生の２チーム（井上太喜・堀口陽平、浅野悠・張奕沖）が出場しました。結果は渋谷教育学園幕張高校、灘高校が優秀賞に輝きました。本校の２チームは残念ながら国際大会出場の夢は叶いませんでしたが、正直言って、もう少しの所でした。彼らからの報告を掲載します。

井上　太喜

私達の所属しているグローバル同好会では主に模擬国連という活動を行っており、今回、その全国大会にインド大使として出場しました。模擬国連とは、参加者が割り振られた各国の大使になりきり、国際問題について議論を交わしながら国連での会議をシュミレーションするというものです。会議中は、担当国の国益と世界全体の国際益を考慮しながら決議案をまとめていき、この過程で、英語での公式スピーチや、日本語での他国との交渉を繰り返します。また、審査員によりそれらが評価され、最優秀賞または優秀賞を受賞した大使には、ニューヨークで開かれる世界大会への出場権が認められます。

今回私達が参加した全日本模擬国連大会では、先述した本番の会議に先立ち、1次選考として書類審査が行われました。毎年英語課題と日本語課題が課されており、今年は、英語課題はエッセイ、日本語課題は気候変動や安保理改革に関する資料要約、情報収集を踏まえた政策提案などが課されました。特に、政策提案部では

> SDGs(持続可能な開発目標)の目標の1つである「気候変動への対応」を世界的に達成するために、日本政府として、日本の強みを生かして具体的にどのような支援を打ち出すことができるか、あなたなりに述べなさい。ただし、その支援が日本にもたらすメリットについても言及すること(1200字以内)　［一部要約］

といった難解な設問も課されたため、夜を徹して修正を重ね、提出締切直前まで作業をしていました。

書類選考の結果は10月に発表され、それからは今回の議題となっていた「サイバー空間」についての情報収集に明け暮れました。情報収集の中では、実際の英語の決議案や、担当国であったインドの法律、サイバーに関する専門書や論文などを読み込み、本番に向けての準備を行いました。

会議の結果としては、両ペアとも受賞できない悔しい結果に終わってしまいましたが、今までの準備の時間や能力の高い他の大使と話せたことは、自分にとってこれ以上ない素晴らしい経験だったと思います。

最後に、選考課題の添削などこれまでお世話になった先生方やOBの方々、応援してくれた同級生やグローバル部員、そして、これまでずっとペアを組んできてくれた堀口にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

蛇足にはなりますが、元々私自身は帰国子女でないため英語はほぼ出来ず、特に国際問題に興味があるわけでもありませんでした。軽い気持ちで始めた模擬国連でしたが、経験していくうちに成長が実感できる一方で自分の課題が明らかになるのが面白く、結果自分を見つめ直す良い機会にもなりました。是非、英語の得手不得手や興味の有無に関わらず、模擬国連に一度は挑戦していただきたいと思います。

堀口　陽平

11月12，13日に模擬国連全日本大会にインド大使として参加してきました。残念ながら賞を受賞することはできませんでしたが、これまでの中でも結構やりがいがある会議だったと思います。

そもそも、僕が模擬国連を始めたのは中3の3学期頃でした。グローバル同好会のディベートに興味があり、見学に行ったところ、先輩に「一週間後の模擬国連に参加してみない？」と聞かれ、模擬国連がどんなものかほぼ分からないまま初めての会議に臨むことになりました。

会議場風景

初めての会議では何をすればいいか全くわからず、また、自国のリサーチも不十分だったので何もできず、なにが面白いのかも全くわかりませんでした。しかし、ほかの中3の生徒に感化され、続けていくことにしました。

3回目ぐらいから現在のペアの井上太喜と組みはじめ、5，6回目ぐらいから自分たちが考えた意見を決議案に入れることができるようになり、それなりに会議が楽しくなっていきました。

高2になってからやっと模擬国連においてのコツなどをつかみはじめ、僕と井上の役割分担もうまくゆき、ようやく決議案の主要提出国になれるようになりました。

今見ると結構ゆったりとした成長だったと思いますが、その代わり一歩一歩着実に成長することができ、また、それまでにかけた約20回という会議数が自信につながり、かえって良かったと思います。

僕たちは会議の初めから、僕が自分のグループをまとめる内政、井上がほかのグループと交渉をする外交と、2人が完全に違う作業をし、互いはあまり干渉しないという模擬国連では珍しい完全分業体制でやっていました。（普通は2人でどちらかをやったり、その場の雰囲気で役割を決める場合が多いです）これは互いがしっかり役割を行って、うまく情報共有をしないと失敗したりする結構リスクもある方法ですが、その代わり成功すれば普通の作戦よりうまくやることができます。

全日では会議の初めに主導権をとることができませんでしたが、役割分担は成功し、グループのリーダーだったベラルーシ大使の下、僕は内政、井上は外交で全力を出すことができました。

またこれまで一番の苦手だったスピーチも今回はとても楽しくやることができ、個人的にはこれまでの自分のスピーチの中では一番良くできたと考えています。

僕がこれほど楽しい模擬国連生活を歩めたのはやはり、周りの影響やサポートのおかげだと思います。まず、海城のグローバル同好会の部員たち。 部員の模擬国連やそれ以外などで活躍している姿を見ることで、僕もそうなりたいと思うことができ、模擬国連を続けていくことができました。そして、約20回もの会議を一緒に出場したペアの井上。正直、完全分業していたこともあり、井上の苦労を完全には理解できていないと思いますが、それでもとても頑張ってくれていたのは理解しているし、井上だったからこそここまでやって行けたと思います。これまでいろいろと本当に感謝しています。

浅野　悠

So we beat on, boats against the current,
borne back ceaselessly into the past

初めて私が模擬国連に興味を持ったのは中三の二学期でした。グローバル教育部にたまたま立ち寄った際、先輩に誘われてなんとなく始めただけでした。まさか、模擬国連という一見謎めいたものに高校２年まで虜になるとは思いもしませんでした。当時私はテニス部に所属していましたが、一度模擬国連の練習会に参加してから、テニス以外に感動するものを見つけてしまったのです。そして、その時から全日本模擬国連大会への出場を目標にしていました。今回出場を果たしとても光栄に思うとともに、大会に参加してみて今までに感じたことのない悔しさと自らの未熟さを実感しました。

まず、模擬国連では、国連総会であるテーマについて、割り振られた国の大使になりきり交

渉を行います。最終的に決議案（有名なものだとCOP21のパリ協定）というものを提出し、合意形成を目指すというものです。交渉能力、論理力、リーダーシップ力、英語の応用能力、スピーチ力など様々な能力がそこでは試されます。

張と私は全世界大会に向けて、この二年間ずっと努力してきました。正直全国大会に対して、今まで参加してきたOBよりも数倍準備したと思いますし、納得のいくまで粘りました。しかしながら、あと一歩のところで世界大会に出場できませんでした。私がこの経験を通して感じたことは二つあります。

まず一つ目として、時間の管理能力の重要性です。今回私は決議案を作成する際、グループ内のリーダーとして行動しました。リーダーになることは極めて難しく、様々な立場を持つ国の妥協点を探り、一つの案にまとめる能力が試されます。ここでわたしたちはコンセンサス（全会一致）をとるため、できるだけ多くの国をまとめようとしました。しかし、多くの国をまとめようとするほど、妥協に要する時間がかかります。結果的に決議案提出時間に三分遅れてしまい、私がまとめた多くの国の決議案は受理されませんでした。よく世界ではラテン系の人々を中心に遅刻することが常態化している、など聞きますが、やはり公式の場では、期限は絶対です。提出時間に三分遅れただけで世界大会の出場権がなくなってしまったのです。期限内にどれだけ効率的に物事をすすめられるか、このようなことは日常社会にも当てはまると思います。今後二度と同じ轍を踏まないと肝に命じました。

交渉風景

二つ目として、優秀な人たちに圧倒されたことです。日本には、信じられないようなエリートがいます。頭の良さだけではなく、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力、その他全てと言っていいほど兼ね揃えている人たちがいます。このような人たちと直接対面したとき、表現し難い畏怖の念を感じました。この人たちと将来も戦っていくのだと考え、自分と比べてみると、未熟さがどんどん露呈してきて、精神的におかしくなってしまいそうでした。（実際、大会直後は精神的におかしくなりましたが）自分は未熟であるという実感、一方で競争相手はかなりのエリートであるという事実。この差を解消すべく、今回の経験を糧に現実と向き合って頑張っていきたいと思います。

これまで反省点ばかり述べてきており、後ろ向きに捉えられるかもしれません。実はそうではありません。これだけ熱心に取り組めたことによって、今までごまかしてきた現実を実感できたことは、「楽しかった」という単純な感想に終わらず、有意義であったと考えます。これほど一喜一憂し、自分を育ててくれたものに出会えたことは幸運でした。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

p. s.

‘So we beat on, boats against the current, borne back ceaselessly into the past‘

簡潔に言えば、‘過去に押し戻されながらも、現在へと立ち向かっていこう’、という意味。

張　奕沖　「模擬国連のリーダー」

他の３人はぞんぶんに全日本模擬国連の様子について語ってくれたと思うので私は少し違った切り口から模擬国連を語っていきます。

私の海城での５年間は２つのイベントのためにありました。１つは文化祭であり、もう１つはこの模擬国連です。文化祭で私はリーダーシップを発揮し、文化祭を作り上げていかなくてはならない立場でした。そして、この模擬国連でも優勝するためにはリーダーシップを発揮し、国々をまとめていかなくてはいけません。

しかし、２つのリーダーシップには明らかな違いがありました。文化祭で実行委員長であったために、最初から私に求められていた役割は、各人に対して指示を出し、動かしていくことでした。それに対して模擬国連では各国はみな対等です。例えば日本だからアメリカに対して弱いなどということは決してありません。その点が模擬国連が模擬である所以であり、楽しいところでもあります。そんな中で模擬国連ではどのようにリーダーシップを発揮していけばよいと思いますか？

第１のポイントは「他国の話を聞くこと」です。一般的にリーダーシップというとカリスマ的な魅力を持ち、相手を指導していくイメージがあると思います。私は模擬国連を始めた当初はそのようなイメージを持ち、とにかく他国を論破するなどして、相手を圧倒してリーダーシップをとっていこうと考えていました。

しかし、多くの場合そのようなモギコッカー（模擬国連する人）は孤立します。なぜなら他の国も同じように国益を確保したいからです。自国の国益に耳を傾け、理解してくれる人（国）に対してこそ親近感は沸きます。

当然のことながら、国家間で国益は異なります。つまり、すべての国の国益を100%満たすことは不可能です。必ず国家間で利害の対立が起きます。この利害を調整するために、対立する国どうしの仲介をすること、例えば妥協案を提案したりします。そうして最終的に参加国すべての意見をまとめ上げ、１つの合意に至らせることこそが模擬国連における“リーダーシップの基本”なのです。

去年模擬国連で優勝し、NYに行ったモギコッカーと話す機会がありましたが、実際、彼らは人から話（国益など）を聞きだし、まとめることが非常に上手いのです。例えば相手と話すときの表情や口調、または相手と話しがかみ合わないときの辛抱強さ、さらには共感力。所々に“世界との差”を感じました。

会議終了後一堂に会した各国大使

第２に模擬国連のリーダーには自分の国益に合った形で議論を動かしたり、明らかに正しくない意見に対しては否定する勇気も必要です。あくまで模擬国連では自国の国益を確保していかなくてはなりません。また、国際社会にとって明らかに不利益な意見を鵜呑みにしてはいけないのです。例えば今回、いろんな国が（サイバー攻撃に対応するために）国連の専門機関の設立を安易に提唱していました。しかし、実際は予算の問題、運営主体の問題など数多くのデメリットが生まれます。このような意見を私たちは否定しなくてはいけません。模擬国連では他国の意見を聞き、まとめると言っても他国の意見にただ迎合するリーダーではいけないのです。

いま世界ではあるべきリーダーの姿がゆれています。アメリカでは大衆に迎合する企業家が大統領になったり、欧州では大衆に迎合する右派のリーダーが大衆の支持を受けています。一方でロシア、トルコでは強権的なリーダーが国民の心をつかんでいます。民主主義が壊れ、世界が分断していくようにも見えます。

そのような中で民主主義におけるリーダーとは何か、また世界をまとめるために必要なリーダーシップとは何か？それは子供の行う模擬国連の中であっても見出せると私は感じました。

模擬国連では力でゴリ押していく人はリーダーにはなれません。人の話を聞き、利害を調整して、まとめる人がリーダーになります。だからといって完全に他国の意見に迎合しないのも模擬国連のリーダーの資質です。これこそが民主主義の、世界を１つにまとめるためのリーダーシップではないでしょうか。模擬国連で得たこのような経験、気づきや反省を大学へ社会へ、さらには世界へ出ていっても忘れず活躍していきたいです。